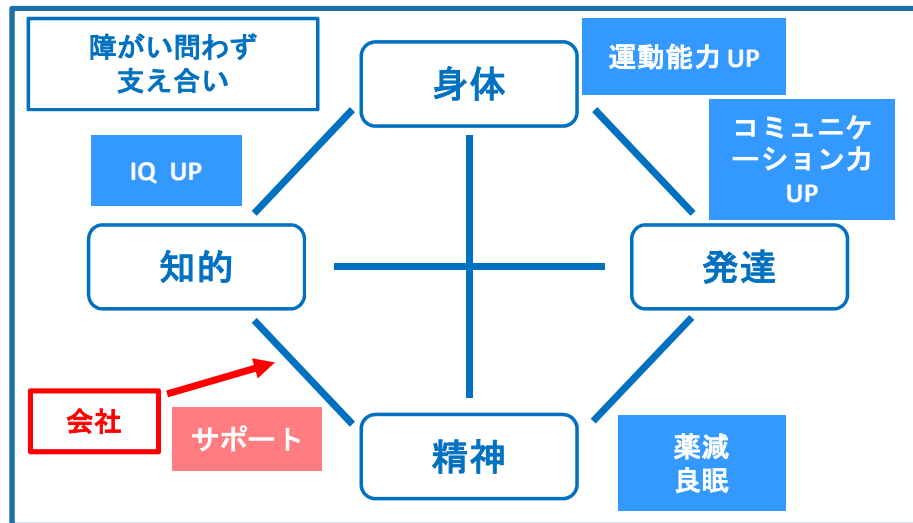

情報通信業

29. サポートし合うことにより障がいを軽減（富士ソフト企画株式会社）

取組の概要

当社の社員の9割は障がい者である。配属は、障がい種別にかかわらず混在するようにしている。異なる障がいの社員をサポートすることにより、自分自身の障がいを軽減することができる。親会社のリワークも障がい力を活かして受け入れ、障がい者が健常者のサポートをする逆転の発想が活きる。



取組を始めた動機・課題

障がいを持った方を雇用しても、職場定着が課題であった。自分は人の役に立っているという感覚が持てず、仕事に身が入らないことが原因のひとつと考えられた。障がい者だから自分はサポートをされる側だという認識が受け身となって表れていた。

解決に向けた具体策と成果

社内では大半の社員が障がいを抱えている。他の社員が苦手としているところを自分がサポートできる環境を作ることにより、人の役に立っているという感覚を持つことができる。これが自己肯定感を高め、働き貢献する喜びとなる。自助力を活かすことにより、お金をかけずとも職場定着につながる。

該当するSDGs目標
(3つまで)

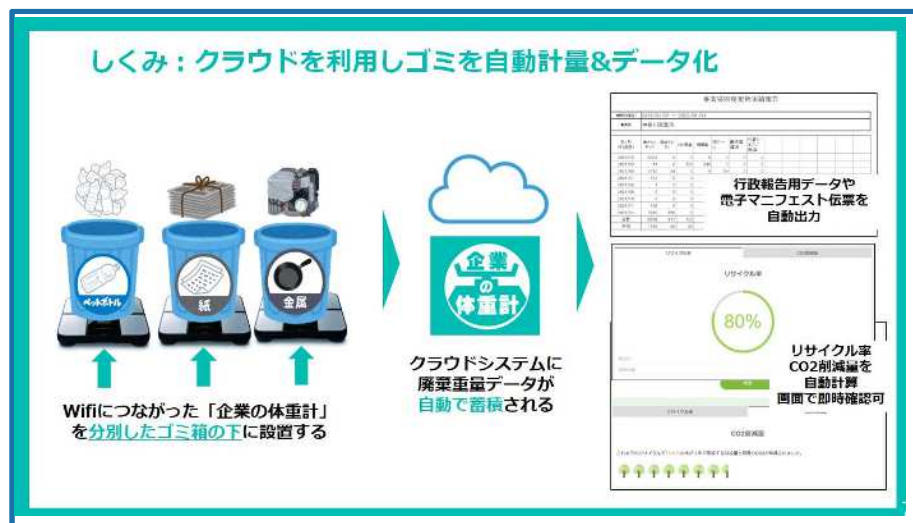


36. 産業廃棄物管理のDXにより廃棄したゴミの約90%をリサイクル実現 (株式会社ケイ・システム)

取組の概要

ショッピングモール内のテナント会議で、「企業の体重計」で取得できた店舗ごとのゴミの排出量を報告、排出量削減の施策を検討・実施

・ **今までリサイクルをせずに廃棄していたゴミの数量の把握**が可能となり、改善策を実施し、廃棄したゴミの**約90%をリサイクル実現**



取組を始めた動機・課題

本社から遠方に位置する「ショッピングモール」のゴミ排出データを即時把握することを行いたかったため。

それまで紙でおこなっていた**マニフェスト伝票処理を全店舗で電子化し、ペーパーレス化**を実現するための意識改革（行動変容）が必要だった。

解決に向けた具体策と成果

廃棄物排出量の目標と実績を容易に把握できるようになり、現場担当者の廃棄物削減意識が高まった結果、行動変容のきっかけとなった。**利害関係者（金融機関等）へ、廃棄物削減・リサイクル促進といったSDGs経営を実施していることを、データとともに説明可能となった。**

該当するSDGs目標
(3つまで)

